

子どもをとりまくメディア環境

～今、大人として向き合うために～



Step vol.13

女と男がともに生きる未来へ



座談会「子どもたちが読むマンガ・雑誌を調査して」

インタビュー「親にしかできない性教育がある」

「インターネット時代を生きる子どもたち」



泉南市



もう無関心では
いられない



インターネットに携帯電話。現代の子どもたちは、今の大人が子どもの頃に経験したことがないメディア環境に生きています。こうした新しいメディアに加えて、以前からあるマンガ、雑誌なども含めて、「性」に関心の芽生える思春期の子どもたちが受け取る情報は、より過激になってきています。子どもたちが、事件に巻き込まれたり、危険な目に遭うことがないだけでなく、はんなりする情報にふりまわされず、男女の対等な関係を築くことができるように、大人として私たちは何をしなければいけないか、一緒に考えてみませんか。

少女マンガは恋愛もの、少年マンガは対戦もの

遠矢 2005年日本産科婦人科学会市民公開講座での発表で、子どもたちが読んでいるマンガのなかで「お前を愛しているからコンドームは使わないんだ」というシーンの一コマを見せていただき、とてもショックを受けました。私自身もマンガを読んで育ってきましたから、今の子どもたちが読むマンガのことをちゃんと調べようと思ったのが調査を行う一つのきっかけです。

久津輪 複数の少年・少女マンガについて、内容の特徴を「恋愛」「セクシュアル」「権力」「対戦」「暴力」という要素に分類したところ、少女マンガは「恋愛」、少年マンガは「暴力」「対戦」の要素に偏っていました。このこと自体はこれまでも指摘されていたのですが、少女マンガの「恋愛」で描かれる男女のあり方がとても気になりました。例えば、キスシーンがよく出てきますが、決まったように女の子が突然キスを奪われる、そこで女の子はドキッとして恋が始まるという展開。

自分自身の恋愛体験を振り返ってみて、常にキスは相手からされるのを待つ意識があったと思います。自分が読んでいたマンガから知らず知らずのうちに影響を受けていたのだと感じました。

恋愛のなかでリードするのは男の子。男の子は好きだからこそ嫉妬して暴力的にさえる、ということを肯定するようなストーリーは、とても危険なメッセージだと思います。

一方の少年マンガで女性が登場するときに、おしりのアップとか大きすぎる胸とか、女性の体を性的な対象として描いている場面が多く、またそれがストーリーとは関係なく当たり前のように登場している点に疑問を感じました。

遠矢 30年前でも男性がリードする展開だったけど、以前との違いは、支配や束縛もリードに見せかけて、それを恋愛だと思わせるような表現。ある単行本では、家庭教師をしている高校生が教え子の中学生から、コードで腕をしばられてレイプされ、反省して謝る彼をすんなり許して恋に発展するというストーリー。これが小学生も読む少女マンガの付録に掲載されたものだと思って驚きました。

雑誌から発信される、男らしさ、女らしさのメッセージ

伊田 中学生向けの雑誌では、「彼からもらった嬉しい愛の言葉」として、「他の男としゃべるな」「オマエを幸せにしてやれるか心配だ」「バカでよっ！そんなとこ含めてオマエが好きだから」とかすごい古臭い言葉がカッコイイように書いてありました。若い子には新鮮に映るみたい。そんな意識のうえに、過激なセックス描写を目にする機会が増えて、しかも低年齢化している。



「マンガ・雑誌の『性』情報と子どもたち」(大阪府ジャンプ活動事業報告書 2008年3月) 発行：特定非営利活動法人 シーン (<http://www.npo-sean.org/>)

今、『恋空』という携帯小説がテレビドラマで放映されていますが、男性がめっちゃめっちゃ強引で女性に対して命令口調。女性は「何でもあなたはそうなの?」と言いながらも男性の強引なふるまいに従っていく。そこに女性の主体性はなくて、男性は乱暴なくらいで当たり前というメッセージを感じます。

遠矢 若い子にとって、アイドルが恋愛の疑似体験の対象となるなかで、ファッション誌に登場する男性アイドルが語る理想の女性像が、男性にとって都合のいい女性のような印象もあります。

しかし以前、高校生対象のデートDV防止教育の一環で、「恋人に期待すること・期待されたいこと」を聞いたとき、「お世話すること」は男子が女子に期待するよりも、女子が男子から期待されたいほうが上位だったんです。女子のほうが「女らしさ」にしばられているかもしれません。ただし、生まれ変わったら男と女どちらになりたいかで、中学生男子はほとんどが生まれ変わっても男と答



子どもたちが読むマンガ・雑誌を調査して

～ワンパターンの恋愛観と「性」意識～

男女平等をテーマに学校で出前授業などを実践する特定非営利活動法人 シーンでは、思春期の子どもたちが読むマンガ誌や雑誌には、どんなマンガや記事が載っているのかを調べて報告書にまとめました。調査から見えてきたことを座談会でお話いただきました。

えます。自分がバカにされたと感じる言葉では、「女みたい」とか「女々しい」と言われること。女子を下に見る意識を感じました。

久津輪 最初に言ったように少年マンガでは、「対戦」もの多くて勝負に勝つこと、それに関連して暴力が頻繁に出てきます。そこで学ぶ人間関係は、勝ち負け、上か下かに偏りかねません。それに加えて今話を聞くと、恋人関係においても男女が対等ではなくて上下の関係に陥ってしまいがちになると思います。

中学生の性意識

遠矢 今回はゲーム雑誌も調べました。ある雑誌で紹介されているゲームソフトのうち半数は18歳未満購入禁止のアダルトゲームソフト。雑誌自体は18歳未満でも購入でき、ゲームソフトもインターネットで18歳以上と申告すれば購入できてしまうという問題点もあります。これらのゲームのなかで女性を性的な対象としてのみ描く「性の商品化」も気になるところです。

今回の調査の元となった「中学生の性に関する意識調査」で、「性」に対するイメージを聞いたところ、「愛」などの温かいイメージよりも、「いやらしい」「恥ずかしい」「エロい」といったマイナスのイメージを抱いている割合が高かったのは、マンガやゲームでの描かれ方も影響しているのではないのでしょうか。

しかし、例えば出前授業のなかで、男の子が女の子のことを「こいつの飼い主は俺だっただろー」というマンガのシーンを見せて、飼い主ってどういうことかな? と問いかけると、「首輪をつけて自由を奪われること」と返ってきて、おかしいということがちゃんと分かっています。大人が考えるきっかけを与えたら、子どもたちは理解する力があると感じます。



伊田広行さん(いだひろゆき)



遠矢家永子さん(とよやかえこ)



久津輪麻美さん(くつわまみ)

出席者

- 遠矢家永子さん** 特定非営利活動法人 シーン代表理事 事務局長
- 久津輪麻美さん** 現在大学院生。調査ではマンガ誌を担当
- 伊田広行さん** 大学非常勤講師。調査ではファッション誌を担当



子どもたちが読むマンガ・雑誌を調査して



調査はメンバーがそれぞれ分担して分析しました。
●保村美佐江さん 「広告」を担当 ●内田とも子さん 「アイドル」を担当
●堀切きみよさん 「占い」を担当 ●中村淑子さん 「表紙」を担当

※ デートDVにつながる背景

久津輪 大学生になると恋人がいてセックスをする関係になる率もぐんとあがりますが、身近な友達恋愛話のなかで、デートDVだと思ふことがよくあります。その背景には、マンガで描かれているような恋愛観とつながるものがあると感じます。女の子は、男の子が強引だけが素敵と思っているわけではなく、強引なんだけど、そのあとでふっと優しくなったり、寂しげな表情や「君がいなくて僕はダメなんだ」みたいな感じで女の子に甘える。女の子は、暴力をふるわれたり無理強いなセックスは、すごくいやだけど、もともと相手に惹かれているので、そういうことを言われると、「あ、やっぱり私も好きだわ」となって、暴力行為があったとしても別れることができないというのはい多いと思います。

遠矢 相手の自己決定権を奪うことを愛だと言いくるめているのがデートDVだと思うんだけど、社会全体を見ても、自己決定権を人にゆだねて守ってもらうのがラクという風潮があるような気がする。でもそれは自分の責任を放棄していくことなんです。

伊田 特に恋愛関係で気をつけなさいといけないと思うのが、これは私がしたいことなのか、彼がしたいことなのか、と自分に問い直すことが必要だと思う。そこの線引きができないと支配の関係を陥りやすいから。

いろいろな関係性があると知ってほしい

遠矢 暴力で支配される前の段階では、相手のために何かをしたとしても、それは自分自身の選択で、結果は自分が引き受けなさいといけないことが理解できていたら、どうにかなるのかなと思う。

DV予防という観点から見て、問題は恋愛のパターンであまりにも画一的な情報が流れすぎていること。もっといろんなカップル像があっけいいし、いろんな恋愛の見せ方があってもいいはずなのに、考える要素と機会が奪われているという感じです。

伊田 いろんな経験をしたり、いろんなものを見たりして、一つだけじゃないということを経験していくことが大事。知ったうえで選ぶのはいいけれど、偶然に出会ったものに支配されるのは危険。経験が少ないと判断力がつきません。

遠矢 シーンで取り組んでいる事業の根底は、あなたの「こころ」

と「からだ」をもっと大事にしていこう、ということ。自分自身がどんなふうにいるか、どんなふうを考えているか。恋愛もそこから発していく必要があるのに、この年になったら彼氏や彼女の一人もいないと、恋人ができたならセックスしないと、というようなパターン化されたものに踊らされるんじゃないかと、あなたが今、気持ち豊かであるか穏やかであるか、その人に安心感を感じているか、という感覚に戻りましょうという話をします。

情報があふれているので、偏った知識をたくさん着込んでいるというのが今の子どもたちの状態。自分にとってどれがいいかはあなたの感覚だと伝えたいですね。

※交際相手による暴力のことで、身体的暴力だけでなく精神的、性的暴力なども含む

シーンのメンバーおすすめ本

- 『卒業式』 秦野なな恵 (集英社)
女子中学生が自分や周りのことを独特の感性で見つめ、懸命に世の中を理解しようとする姿を描く。
- 『愛すべき娘たち』 よしながふみ (白泉社)
娘と母、男女の愛、働くこと…幼なじみの3人の女性を軸に展開する等身大の物語。
- 『IS (ai-esu)』 六花チヨ (講談社)
2000人に1人いるといわれる「女でも男でもない」性、インターセクシュアルをテーマにした作品。

座談会を終えて

自分の子どもはどんなマンガを読んでいるのだろう。「あなたが面白いと思うマンガを私にも読ませて」と子どもに言ってみた。「このマンガは絵が好き。これはストーリーが面白い」と10冊あまりを出してくれた。「ふんふん、どれどれ」。断片的なセリフで読み進めるのがしんどいものもあったが、口ベタで自分の気持ちを伝えられずいつも誤解されている男の子と、いじめられ体験がトラウマになっている女の子の淡い恋物語や、手芸が大好きな男の子が主人公のマンガなど、なかなか捨てたものじゃない。子どもがどんなマンガを読んでいたとしても、頭ごなしに禁止するのではなく、どのように感じるか話す機会を作ったり、子どもなりに考えるきっかけを与えることが大事なんだろうと思う。



伊藤 悠子さん
いとう ゆうこ
思春期保健相談士・看護師

長年にわたり性にまつわる相談や学校現場での性教育に携わってこられた
思春期保健相談士の伊藤さんに子どもをめぐる性の問題をお聞きしました。

親にしかできない性教育がある



寂しさを忘れさせる出会い系サイトにアクセス

子どもたちと接していて感じることは、他人との距離感をうまくつくる経験をしてきていないということ。幼児のように身体接触を求めてくる子どもが多いのです。友達同士では「親友」と言ってすごく仲良くしていたのに、ちょっとしたことで一転して離れてしまうことも。

他人との距離のとり方が分からず、人との関係が苦手な子が、それでも人を欲してケータイをいじっているうちに出会い系サイトに入ってしまうといった現象につながるのには珍しくありません。小学6年生でも出会い系サイトに接触した経験のある子は結構います。

子どもの性被害の実態

国際的な調査によると女子は4人に1人、男子も6人に1人が18歳までに性被害の経験があるという結果が出ています。子どもが性被害に遭うのはほとんどが顔見知りの人から。しかし、周りの大人から信じてもらえなかったり、あなたにも落ち度があると言われたりするので言えなくなる。男子のほうが被害に遭ったことを言えない傾向が強いでしょう。

子どもの性被害事件が起こったときに、周囲の大人は社会防衛としての再発防止対策にはやっきになりますが、被害を受けた子どもの心が置きざりにされることがよくあります。親は時間が経ったら忘れるだろうと思いたいでしょうが、それは間違っています。できるだけ早く子どもの心に向き合って、つらい気持ちを出せるようにしてあげることが必要。そうしなければ、その体験が沈め石のようにならずに心に残って、大人になっても何かあったときに浮かび上がってきて苦しむことを繰り返します。

親は専門家と同じことを言わなくていい

子どもたちは、メディアから受け取るステレオタイプな情報をうのみにしていると感じることも多いです。いろんな情報が入ってきたときに、自分が違うなとかいやだなと感じたら、その気持ちを感じていいんだと思ってほしい。

親こそが、子どもたちに自分の体も気持ちも自分のもので、自分の感覚を信頼してよいのだと、伝えられるのではないのでしょうか。自分がいやだと思ったら、それを言ってもいいんだよ、そして言えなかったあなたも悪くないよ、と。

親が伝えられるのは子どもを大事に思う、その気持ちです。「あなたが生まれてきてうれしかったよ」とか「初めて寝返りしたときはこうだったよ」と親にしか言えないことで、子どもに「生まれてきてくれてありがとう」を伝えてほしいと思います。何よりも、親自身が、自分のことを大切で、かけがえのない存在だと思えること。それが子どもの命を守るための、最大の力になるのではないのでしょうか。

ネット遊びに、親は関心を持とう！

群馬大学特任教授、青少年メディア研究協会理事長 **下田博次さん**

「学校裏サイト」という言葉をご存知ですか？

子どもたちが遊び感覚で行う情報の受発信がきわめて大きな問題を含んでいて、たんなるインターネット遊びにとどまらず事件に発展するケースも起こっています。情報やメディアの研究者であり、「学校裏サイト」の問題を早くから危惧されていた下田先生に寄稿いただきました。

学校裏サイトとは

いつごろからか、中高生らが、自分たちの通う学校名を付けた掲示板遊びを「〇〇校サイト」とか「裏学校サイト」「学校裏サイト」等と呼ぶようになった。パソコンや携帯電話から利用するこの掲示板遊びは、文部科学省の調査で確認しただけでも全国に約3万8000件あるが、実数はもっと多い。

調べてみると、それは大人の「2ちゃんねる」の子ども版のようなもので、全国版と地方版に分類できる。全国版は全国の中高生の利活用を目的とした「一般学校裏サイト」だ。広域の交流をめざしたもので、「高校生広場」「Teen's 学園」「学生の性知識」などのサイトが有名である。この一般学校裏サイトでやり取りされる内容の多くは、恋愛のことや趣味を同じくする者同士の交流だが、趣味の中身はわいせつ情報が中心とあってよい。露骨に性行為を想起する会話が顔を知らない子ども同士のあいだで交わされているのである。また、「女の子の身体はどうなっているんだ？」という男子生徒の書き込みに、女生徒が「それじゃ見せてあげよう」と自分の身体を撮った写真を張り付けて返信するケースを私たちはいくつも見てきた。そして、この全国版に対して、地方版は主に学校名が付けられた「特定学校裏サイト」だ。「県立××高校サイト」などと名乗っていて、閲覧したり、書き込みをしたりするのは、その学校の生徒や卒業生がほとんどである。わい談、セックスに関することが多いのは全国版と同じだが、地方版は誹謗や中傷が目立つ。たとえば「超うざいし!! とくに山●あ●さ」「あいつ悪ぶってるけど、顔とかマジ、ブサイク!! キモイし!」「嫌われてるらしいよ。アイツ 先輩からも目つけられてるよね」といったぐあいだ。対象となる生徒名が匿名やイニシャルになっていても、自分たちの学校内のことだから容易に特定され、現実のいじめと結びつく可能性が非常に高い。

今はプロフが流行

「性別：チョットHなおんなの子」「誕生日：17歳だよ」「髪型：写メみてね」「ここだけの話：メル友募集中だよ。Hな画像リクエストできるよ」

これはプロフと呼ばれる中高生に大流行の自己紹介型ネット遊びの一例だ。一昨年夏頃より中高生のネット遊びは、学校裏サイトからプロフへと急速に代替わりしている。豊田市や舞鶴市で起きた最近の悲惨な事件の被害者である2人の女子高生も、この流行のネット遊びをしていた。名前や身長、趣味などデータを入力すればすぐに「私はこのような子どもで、このような考えを持ち、日々こう暮らしている」という自己PR媒体ができる。そして、そのプロフを見た人と直ぐにつながるができる。問題は、知っている人ばかりか知らない人間にもつながりやすいということだ。現に上記の「性別：チョットHなおんなの子」には「メル友になりたい」「会えませんか」という書き込みが次々入った。プロフ発信者に判断力や自制力がなければ、危ない出会いに発展する要素が多い。子どもたちは「ネットナンパ被害」と呼んでいるが、我々も、これまでならつながるはずがない真面目な女子中高生が暴走族の成人男性らと簡単につながってしまう様子などをモニタリングしてきた。このネット遊びには個人情報の流失、悪用（自分だけでなく友達の情報も悪用される）から非行、逸脱行為にも流れやすいリスクが多々ある。

保護者は、買い与えた携帯電話でプロフ遊びに夢中な子どもに、そのリスクを教えずにはいけないだろう。また子どもに、裏サイトやプロフ遊びをさせたくないときは、きつい（厳格な）フィルタリングをかけるとよい。ケータイを与えればなしで、子どものネット遊びに無関心はいけない。

※「2ちゃんねる」：インターネットを通じて誰でもアクセスできる匿名掲示板



著書『学校裏サイト』(東洋経済新報社)、『インターネット・リテラシー〜子ども達の携帯電話・インターネットが危ない〜』(NTT出版) 他



大人はどんな向き合っのが
インターネット時代を
生きる子どもたち



『携帯護身術』

下田さんが代表を務める青少年メディア研究協会では、携帯インターネットのワナから身を守るための小冊子なども発行している。詳しくはホームページを。

<http://www.netizenv.org/top.htm>

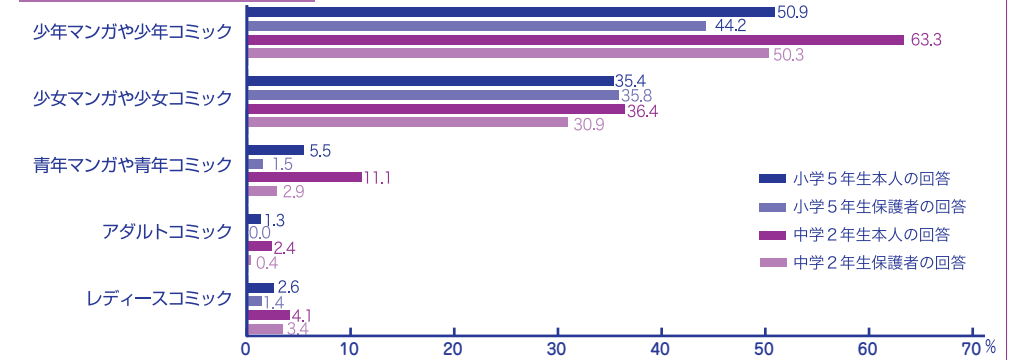
子どもとメディアに関する調査から

日本PTA全国協議会が毎年行っている「子どもとメディアに関する意識調査」についてご紹介します。

★親が知らないところでアダルト系のマンガを読んでいる子ども

多くの子どもがマンガを読んでいます。少年・少女マンガだけでなくアダルト系のマンガを読んでいる子どももいます。保護者のほうが子ども本人の回答割合よりも低くなっており、保護者が知らないところで読んでいる様子がうかがえます。

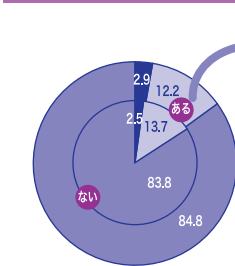
子どもが読んでいるマンガ



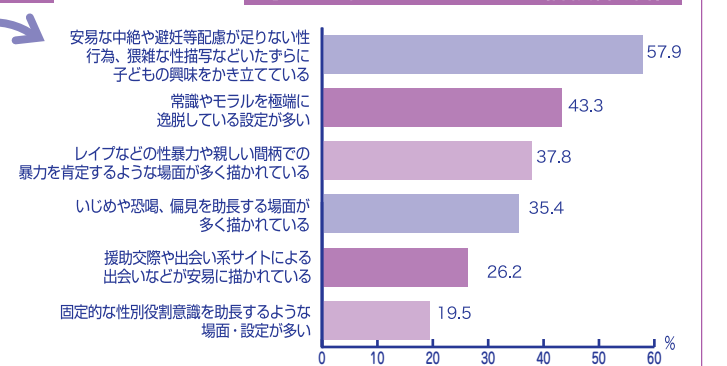
★子どもに読ませたくないマンガ

少年・少女マンガのなかで子どもに読ませたくない雑誌があると答えた保護者の読ませたくない理由では、性描写に対する不安が多くなっています。

子どもに読ませたくない雑誌の有無



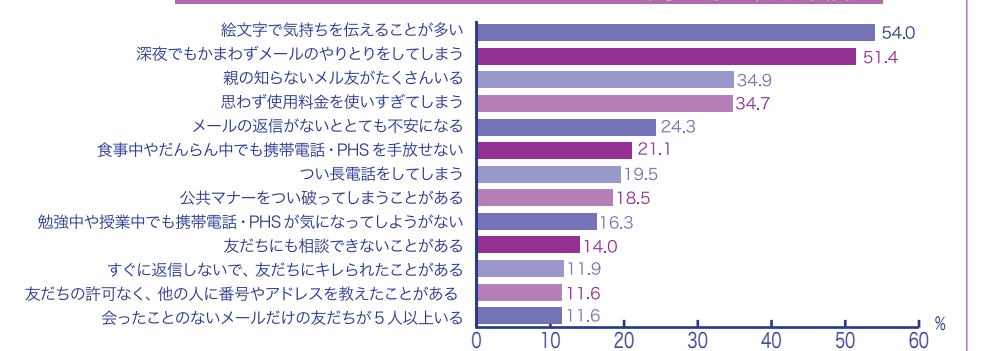
子どもに読ませたくない理由 (保護者合計)



★子どもに広がる携帯電話依存

42.9%が携帯電話を持つ中学2年生では、1日のメールの送受信回数は「11~20通」の回答割合が17.0%でもっとも高いものの「51通以上」も16.2%でほぼ同じ程度です。携帯電話を使用する上で起こることとして、半数以上が「深夜でもかまわずメールのやりとりをしてしまう」と回答しています。また、4人に1人は「メールの返信がないと不安になる」とも。子どもたちの生活のなかで携帯電話の存在とその影響の大きさがうかがえます。

携帯電話・PHSを使用する上で起こること 中学2年生本人の回答



資料：「子どもとメディアに関する意識調査報告書」(日本PTA全国協議会 2008年3月)

男女共同参画ニュース

★「改訂せんなん男女平等参画プラン」を策定。

泉南市では、「男女共同参画社会基本法」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市が行う施策の基本的な方向とその推進の方策を定めた「せんなん男女平等参画プラン」を2002(平成14)年に策定しています。策定から5年間の経過したことにより、国内外や社会・経済情勢の変化と、これまでの施策を踏まえて必要な見直しを行い、特に重点的に取り組む事項や、計画の進捗状況をわかりやすくするための数値目標を設定するなどの一部改訂を行いました。



重点的に取り組む事項

1. 審議会等への女性の参画促進
2. 相談体制の充実
3. せんなん男女共同参画ルームを拠点とした意識改革の推進
4. 仕事と子育ての両立支援策の充実

★ステップネット(せんなん男女共同参画ルームネットワーク)が発足!

せんなん男女共同参画ルーム「ステップ」を拠点として、8つのグループがさまざまな活動を行っています。(2008年9月現在)せっかく同じ「ステップ」に集まっているのだからと、グループ同士のつながりを深めて、さらに元気に、いきいきと活動していくためのネットワークが平成20年度から発足しました。

★女性のための相談窓口をご利用ください。

「ただ聞いてもらいたい!」それだけでも結構です。お気軽にどうぞ。

◆女性のための電話相談

毎週木曜日(祝日・第5木曜日を除く)

午前10時~12時/午後1時~3時 専用電話番号 072-482-0590

◆女性相談(面接)

第1金曜日 午後1時~4時 第2火曜日 午後6時~9時

第4金曜日 午前10時~午後1時

せんなん男女共同参画ルーム「ステップ」相談室

必ず電話予約をしてください。 **072-480-2855**(直通) 泉南市人権推進課

相談者のプライバシーは厳守されます。

せんなんピープル紹介



「ボローニャ国際絵本原画展入選」

えんどうひとみさん

ステップのイラストを描いているのは泉南市在住のイラストレーターえんどうひとみさん。彼女は、イタリアで毎年開催されている絵本原画コンクールの「ボローニャ国際絵本原画展」で今年度(2008年)入選を果たしました。世界中から応募される作品が5人の国籍の異なる審査員により厳正に審査され、今年は2598名の応募者のなかから日本人20人を含む99人の作家が選ばれました。極めてレベルの高いこの公募展で、えんどうさんは2001年、2002年にも入選している実力派のイラストレーターです。

市内で絵画教室も開いています。



入選作品「消えた一階」

発行: 泉南市人権推進課

〒590-0592 泉南市樽井1-1-1 電話: 072-480-2855

ホームページ <http://www.city.sennan.osaka.jp/jinkenkeihatu/2/index.htm>

Eメール jinken@city.sennan.lg.jp

平成20年11月